

平成27年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅱ期）

《教育実践開発専攻 学習開発コース》

専門科目

注 意

1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。

2 問題紙 2枚，解答用紙 3枚，下書き用紙1枚である。

指示があつてから確認し，解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

3 解答は，解答用紙に清書すること。

4 問題紙は，持ち帰ること。



《学習開発コース》

専門科目 問題 1

<1> 次のキーワードから1つを選び、説明しなさい。

- ① 「道徳」の教科化
- ② 「小中一貫教育学校（仮称）」の制度化
- ③ 日本における大学入試改革
- ④ アクティブ・ラーニング

<2> 平成20年1月の中央教育審議会の答申では、算数科の改善の基本方針の一つとして、次のように述べられている。

数学的な思考力・表現力は、合理的、論理的に考えを進めるとともに、互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たすものである。このため、数学的な思考力・表現力を育成するための指導内容や活動を具体的に示すようにする。特に、根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすることなどの指導を充実する。

この中の「根拠を明らかにし筋道を立てて考える」力を育てることは、我が国における算数科の主要な目的として、以前から重視されてきたものである。「根拠を明らかにし筋道を立てて考える」こととその指導について具体的に説明しなさい。

ただし、帰納、類推、演繹という3つの用語を用いること。

《学習開発コース》

専門科目 問題 2

< 3 > OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) とは、学校の学習環境と教員の勤務環境に焦点を当てた国際調査であり、下表は、各国の指導実践に関する調査結果である (国立教育政策研究所『TALIS 日本版報告書「2013 年調査結果の要約」』)。調査対象者は、前期中等教育 (中学校) の教員である。

表に示された事実を基に他国と比較しながら日本の授業の特徴について論じなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

各項目を「しばしば」「ほとんどいつも」行うと回答した教員の割合。

週の授業計画から選ばれた特定の学級について、教員の回答に基づくデータ。

出所：OECD (2014) Table 6.1.